



第10回

スポーツイベントと持続可能性

SUSPON 事務局長、地球・人間環境フォーラム専務理事 坂本 有希

あなたのまちにも「良いレガシー」を! 持続可能なまちづくりのための勉強会を開催

東京五輪・パラリンピックがいよいよ1年後に迫ってきました。五輪は2020年7月24日～8月9日、パラリンピックは同年8月25日～9月6日の日程で開催される予定です。

東京2020大会をきっかけに、国内外で持続可能な社会づくりの取り組みを広げていきたいとの思いを共有する日本のNGO/NPOが集まり、3年前に「持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク（SUSPON）」が立ち上がりました。その後、参加団体は少しずつ増えていき、7月現在、22団体が参加しています（表1）。

SUSPONのメンバーが執筆する本連載では、持続可能な社会づくりの現状や課題、その解決策についての提案や取り組みを参加団体のそれぞれの視点から寄稿しています。今回は、SUSPON全体で実施している2019年度の活動について紹介します。

東京2020大会に向けて 地域交流を活発化

東京2020大会の会場は選手村と報道センターを除き、五輪が42カ所、パラリンピックが21カ所となっています。北海道や福島県などを会場に行われる競技も一部ありますが、

東京都をコアエリアに埼玉県や千葉県など首都圏の会場が大半を占めます。大会名に「東京」が入っていることもあり、東京2020大会への関心の度合いは東京エリアとそれ以外では違いがあると言われています。首都圏以外に拠点をおくSUSPONの参加団体からは、地元での東京2020大会への関心が低いため、大会の持続可能性に関心を持つてもらおうと働きかけても市民の反応が鈍いという声も聞かれます。

内閣府は、東京2020大会に向け、全国の自治体に「ホストタウン」への登録を促す取り組みを進めており、登録数は今年6月現在、300件を超えていました。これは、東京2020大会の参加国・地域と人的、経済的、文化的な相互交流を図る自治体をホストタウンと名づけて活動を広げ、スポーツ立国やグローバル化の推進、地域の活性化、観光振興などに役立てていこうとするものです。

ホストタウンとして登

録している自治体には、東京2020大会に参加するアスリートたちの事前キャンプ地になっているところもありますが、それ以外にも、大会に参加する国・地域に限らず教育や開発など多様な分野で交流や協力関係を持つなど、さまざまな取り組みが実践されています。

表1 SUSPONの参加団体（2019年7月現在）

- NPO iPledge（アイプレッジ）
- I♥SKATEBOARD
- A SEED JAPAN
- NPO法人インターナショナル世界平和の響き
- NPO地域環境デザイン研究所 ecotone
- NPO法人ezorock
- 國際環境NGO FoE Japan
- 学生団体おりがみ
- 環境パートナーシップ会議（EPC）
- 認定NPO法人 環境リレーションズ研究所
- Climate Youth Japan (CYJ)
- グリーン購入ネットワーク (GPN)
- グリーン連合
- CSOネットワーク
- 持続可能な社会をつくる元気ネット
- 水Do!ネットワーク
- 認定NPO法人 スペースふう
- 地球・人間環境フォーラム
- 日本自然保護協会 (NACS-J)
- 日本野鳥の会
- V-SPORTS PROJECT
- 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

表2 サステナブルな地域づくりのための勉強会のテーマ

～2020年を機にごみの少ない街へ～お祭りイベントで活用できるリユース食器	東京2020大会を機に考えよう「持続可能性」と「平和」について	再エネ電力導入の「い・ろ・は」学習会	メガスポーツイベントと責任ある調達を考える
街で行うお祭り等のイベントで、ごみを減らすためのリユース食器活用事例を紹介。ホストタウンとして「おもてなし」をする上でも知っておきたいサステナビリティ（持続可能性）についても取り上げます。	World Peace Prayer Ceremony：世界と各国の平和を祈るセレモニーを開催することで、「平和」の尊さと「平和の祭典」としての五輪・パラリンピックの成功をアピールします。	気候変動対策の有効な手段の1つである「再生可能エネルギー」を導入することの意義、電力契約の切り替え手順、電力契約の切り替えをどうアピールできるのかなど、再エネ電力導入のための「い・ろ・は」を学ぶ機会とします。	東京2020大会では、木材やパーム油、紙、漁業資源などについて持続可能性に配慮した調達基準が策定されました。木材の調達基準を事例に責任ある調達の現状と課題、そして世界の森林問題について考えます。
   	 	   	 
自然が見える目を持つう！「葛西沖三枚洲」おさんぽツアー	～未来を担う若者と考える～スポーツから見るサステナビリティ	給水スポットをまちに増やそう！～給水スポット導入の意義や効果・国内外の事例～	海のプラスチックごみ問題って何？～サステナブルな社会のためにできることとは～
東京に最後に残された干潟が、東京2020大会を契機に国際的に重要な干潟と認知されたことを知つてもらおう！意外と知られていない東京の天然干潟、自然を散策します。	ゴールデンスポーツイヤーを迎えた日本。いよいよ来年は東京2020大会が開催されます。いま私たちがスポーツを通して学んでおくべきサステナビリティや、気になるトピックと一緒にディスカッションしましょう！	東京2020大会を機に、多くの外国人の方々が、暑い夏の時期に日本に来られます。そんな時に、大量のペットボトルで飲み物を提供していいのでしょうか。給水スポットを増やすことができれば資源を無駄にせず、補水することができます。おいしい日本の水を多くの人に楽しんでもらうレガシーをつくるために給水スポット拡大の意義や事例を紹介します。	世界的に注目を浴びる海ごみ問題・プラスチックごみの現状を知り、持続可能な社会のためにできることを考えます。
  	 	       	   

サステナブルな地域づくりのための勉強会

そこでSUSPONでは、ホストタウンとして登録する全国の自治体や各自治体の域内で活動する市民団体を対象に、「サステナブルな地域づくりのための勉強会」の開催を呼びかけることにしました。勉強会には、SUSPONの各部会（ごみゼロ、責任ある調達、エネルギー、生物多様性、ボランティア、ユース、平和とスポー

ツ）の専門メンバーが対応します。

現時点で想定している勉強会のテーマは表2で示した通りです。「東京2020大会をきっかけに地域に良いレガシーを残したい！」「ホストタウンとしてサステナビリティについて知つておきたい！」「ボランティア運営の具体的なノウハウを知りたい！」「再生可能エネルギーにシフトしたいけど、どうすれば良いかわからない！」など、全国各地のホストタウンのニーズを掘り起こして対

応することで、東京2020大会のレガシーとして持続可能な地域づくりの取り組みを全国に広げていければと考えています。

今年度は地球環境基金の助成を受けていることから、若干数ではあります先着順で開催費用をSUSPONで負担します。

勉強会の詳細は、SUSPONのウェブサイト(<https://suspon.net/>)、またはお電話(03-5825-9735)で気軽に問い合わせください。E

